

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年12月25日

【事業年度】 第13期(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社アビスト

【英訳名】 ABIST Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 進 勝博

【本店の所在の場所】 東京都中野区新井二丁目6番13号

【電話番号】 03-5942-4649 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 島村 恒基

【最寄りの連絡場所】 東京都中野区新井二丁目6番13号

【電話番号】 03-5942-4649 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 島村 恒基

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月	平成30年9月
売上高 (千円)	5,300,677	6,215,074	7,387,474	8,169,012	8,761,293
経常利益 (千円)	680,296	958,662	1,293,112	1,492,150	1,620,558
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	391,458	536,276	862,377	966,409	1,072,652
包括利益 (千円)	400,941	459,790	845,207	991,979	1,080,508
純資産額 (千円)	3,084,773	3,411,180	4,073,171	4,806,291	5,576,000
総資産額 (千円)	4,511,645	4,840,032	5,544,574	6,532,342	7,527,593
1株当たり純資産額 (円)	775.07	857.08	1,023.43	1,207.65	1,401.07
1株当たり 当期純利益金額 (円)	103.28	134.74	216.68	242.82	269.52
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	68.4	70.5	73.5	73.6	74.1
自己資本利益率 (%)	17.7	16.5	23.0	21.8	20.7
株価収益率 (倍)	12.2	11.0	11.0	18.2	15.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	514,275	570,240	869,470	1,275,770	1,460,461
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	393,415	428,472	551,274	439,721	131,361
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,268,855	388,639	182,869	258,905	291,156
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,327,211	2,080,339	2,215,666	2,792,809	3,830,753
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用者数〕 (名)	788 〔6〕	873 〔7〕	967 〔11〕	1,079 〔15〕	1,106 〔17〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益金額は、第9期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月		平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月	平成30年9月
売上高	(千円)	5,288,390	6,082,846	7,059,333	7,972,028	8,625,962
経常利益	(千円)	818,290	1,152,453	1,330,498	1,519,647	1,642,350
当期純利益	(千円)	488,798	730,685	900,381	767,209	1,095,063
資本金	(千円)	1,026,650	1,026,650	1,026,650	1,026,650	1,026,650
発行済株式総数	(株)	1,990,000	3,980,000	3,980,000	3,980,000	3,980,000
純資産額	(千円)	3,176,755	3,748,713	4,448,525	5,005,146	5,780,960
総資産額	(千円)	4,606,023	5,086,923	5,834,557	6,624,738	7,632,500
1株当たり純資産額	(円)	798.18	941.89	1,117.74	1,257.61	1,452.57
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	72.00 ()	46.00 ()	65.00 ()	78.00 ()	94.00 ()
1株当たり 当期純利益金額	(円)	128.97	183.59	226.23	192.77	275.15
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	69.0	73.7	76.2	75.6	75.7
自己資本利益率	(%)	21.5	21.1	22.0	16.2	20.3
株価収益率	(倍)	9.8	8.0	10.6	22.9	15.3
配当性向	(%)	27.9	25.1	28.7	40.5	34.2
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用 者数〕	(名)	777 〔2〕	861 〔3〕	957 〔7〕	1,070 〔11〕	1,097 〔14〕

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 第9期の1株当たり配当額には、新規上場及び市場変更記念配当10円が含まれております。
4. 第10期の1株当たり配当額には、東証一部指定記念配当6円が含まれております。
5. 第12期の1株当たり配当額には、創業20周年記念配当5円が含まれております。
6. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益金額は、第9期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

2 【沿革】

当社は、平成18年3月に旧日本ビジネス開発株式会社のエンジニアリング事業本部を母体に、JBSエンジニアリング株式会社として設立され、平成19年2月には商号を株式会社アビストに変更しております。会社設立時の事業拠点は、本社のほか東京支店、西東京営業所、横浜支店、宇都宮支店、名古屋支店、岐阜事務所、大阪支店、広島営業所であります。

年月	事項
平成18年 3月	JBSエンジニアリング株式会社（現株式会社アビスト）を設立し、旧日本ビジネス開発株式会社より、エンジニアリング事業本部を事業譲受 特定労働者派遣事業に関する届出を厚生労働大臣に行い、派遣業務を開始
6月	情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001、現登録組織：本社・東京受託室、現登録活動範囲：顧客要求に基づいた三次元CADによる設計業務）を認証取得
平成19年 2月	株式会社アビストに商号を変更
平成20年 8月	CADデータ変換サービス事業を開始
平成22年 5月	本社ビル（アビストビル）の購入に伴い本社を東京都渋谷区に移転
平成24年10月	支社制を導入し、全国3支社（関東支社、豊田支社、中部・西日本支社）のもとに7事業所を再編成
平成25年 3月	子会社として株式会社アビストH&F（現連結子会社）を設立
6月	本社事務所を東京都中野区に移転し、アビストビルは全館賃貸ビル化
10月	支社制を廃止し事業本部制を導入、全国2事業本部（東日本事業本部及び中部西日本事業本部）のもとに11事業所（5支店、2営業所、2事務所、2受託室）を設置
12月	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場 本社（本店登記）を、東京都渋谷区から東京都中野区に移転
平成26年 9月	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）から東京証券取引所市場第二部へ上場市場変更
平成27年 3月	3Dプリント事業を神奈川県海老名市にて開始（4月から本格稼働） 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
10月	事業本部、経営管理本部の2本部制とし、事業本部の下に全国5事業部（東日本事業部、システム事業部、受託設計事業部、トヨタ事業部、西日本事業部）を設置 システム開発部（現ロボット開発部）を新設
平成28年 3月	厚生労働省による労働者派遣改正法に基づく許可証取得（派13-306330）
7月	事業本部の下に3Dプリント事業部を新設
10月	経営管理本部を廃止し事業本部の1本部制とし、本社機能（ロボット開発部、経営管理企画部、経理部、総務部）を社長直轄に改正
平成29年 6月	受付電話ロボット「abitel（アビテル）」発売開始
7月	3Dプリント事業拠点を愛知県豊橋市に新規開設
10月	受託設計事業部を東日本受託設計事業部、西日本受託設計事業部に分割 トヨタ事業部を第一トヨタ事業部、第二トヨタ事業部に分割
平成30年 3月	品質マネジメントシステム「EN 9100：2016」を認証取得 [認証事業所：3Dプリント事業部（愛知県豊橋市）]
5月	コミュニケーションロボット開発・販売事業より撤退

（注）事業所を技術社員数で支店、営業所、事務所に区分しております。

基準となる技術社員数は、支店が50名以上、営業所が30名以上50名未満、事務所が30名未満となります。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び株式会社アビストH&F（連結子会社）の2社で構成されております。

当社は、設計開発アウトソーシング事業を手掛けており、ハイエンド3次元CAD（以下「3D-CAD」）をツールとした機械・機械部品の設計開発及びソフトウェア開発等を行っております。同開発業務は、業務形態別に派遣業務と請負業務（受託型・常駐型）に区分されます。その他、3D-CAD教育業務、3Dプリント業務、解析業務を行っております。

連結子会社の株式会社アビストH&Fは、水素水製造販売事業を手掛けております。

その他、当社が所有する賃貸ビルを顧客企業に賃貸しております。

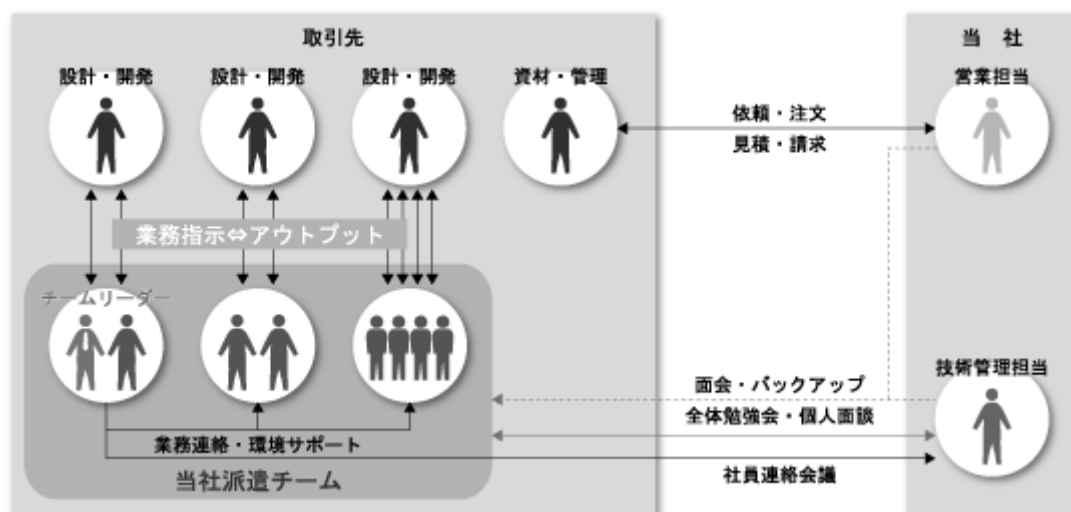
各事業の概要は以下のとおりであります。なお、各事業区分は、セグメントと同一区分であります。

(1) 設計開発アウトソーシング事業

設計開発アウトソーシング事業の取引先は、国内の自動車メーカー及びその部品メーカー、家電メーカー、精密機器メーカーなど多岐にわたっております。その他、3D-CAD教育業務では大学等に講師を派遣しており、3Dプリント業務では個人顧客向けの販売も行っております。

派遣業務

当社は、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」（以下「労働者派遣法」という）に基づいた派遣業務を行っており、当社が常用雇用する労働者を、自動車メーカーやその部品メーカーなどの取引先に派遣しております。派遣業務は、当社（派遣元）が雇用する技術者（派遣労働者）を顧客企業（派遣先）の指揮命令のもと、顧客企業（派遣先）の労働に従事させるものであり、当社、顧客企業、派遣技術者の関係は以下の図のとおりとなります。



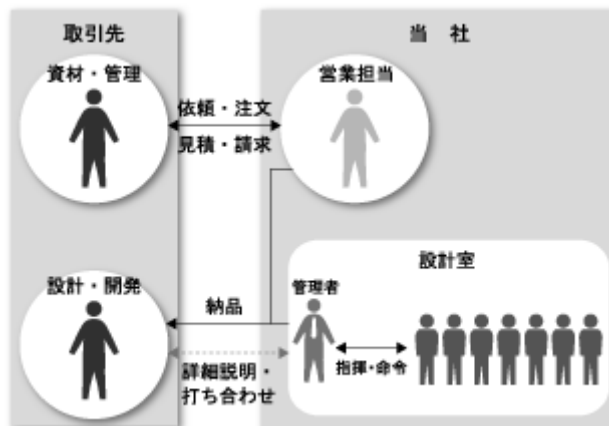
請負業務

請負業務は、当社（請負元）が顧客企業（注文主）から設計・開発を請負い、その成果物を納入する業務契約であり、当社が当社技術者に対し指揮・命令して設計・開発を行うものです。

当社、顧客企業、技術者の関係は以下の図のとおりです。

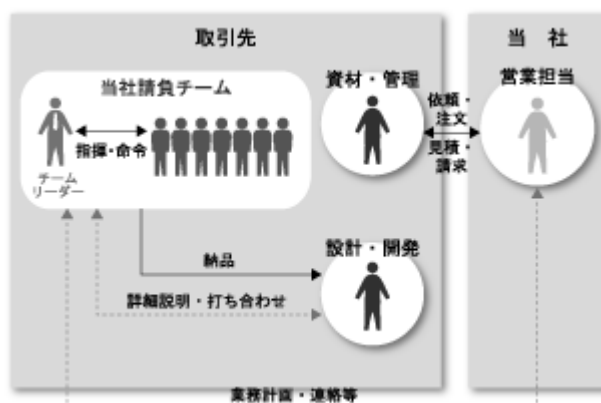
（受託型）

受託型請負業務とは、取引先から依頼された業務を当社に持ち帰り、当社事業所内で業務を行う形態であります。当社支店内の設計室には、3D-CADからプロッター（データ出力装置）までの設備を備えており、業務内容や規模に合わせてチーム単位で設計開発業務を行います。



（常駐型）

常駐型請負業務とは、取引先に作業スペースをお借りし、当社の設計開発チームが常駐して業務を行う形態であります。



その他業務

当社技術者が講師となり、取引先や大学に向けて行う3D-CAD教育業務、試作品等の3D出力を行う3Dプリント業務、ソフトウェアを利用した解析業務を行っております。

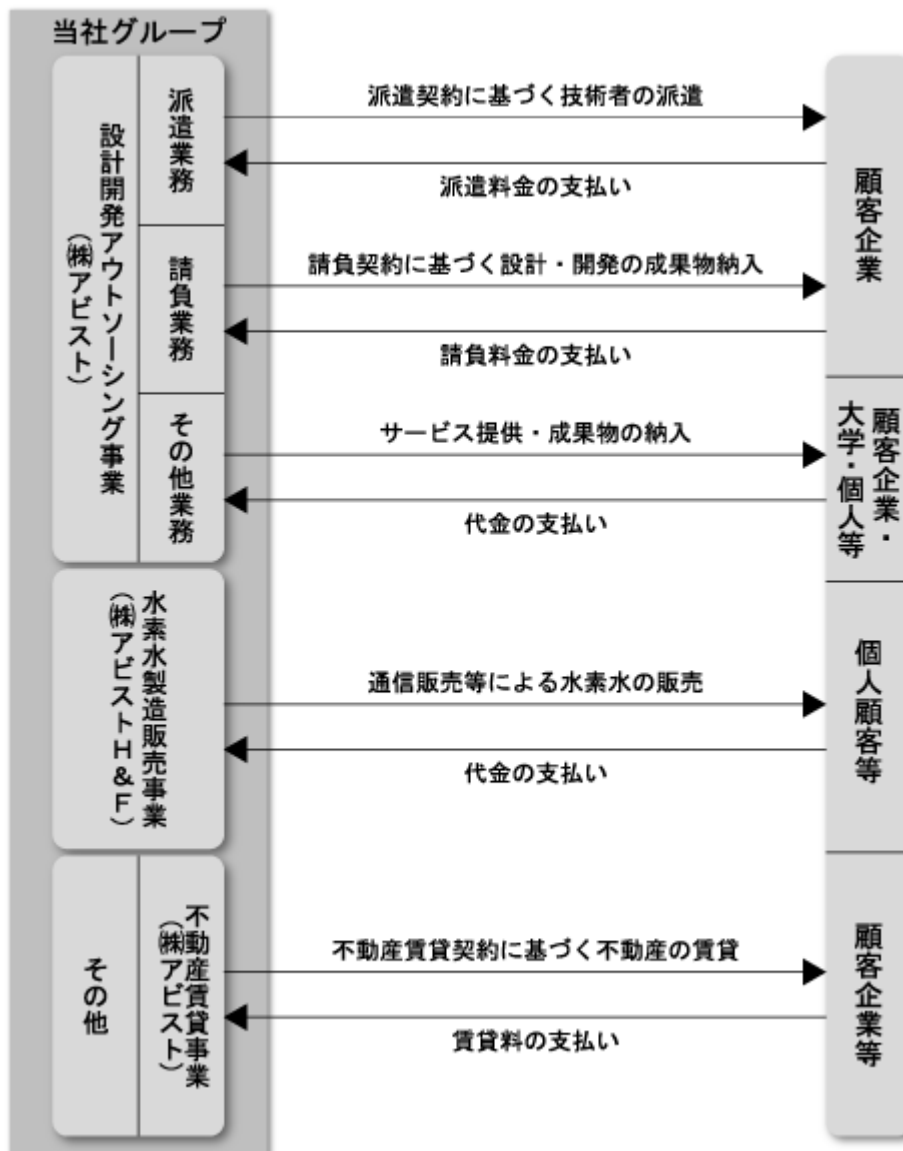
(2) 水素水製造販売事業

連結子会社の株式会社アビストH&Fにおいて、飲料用水素水「浸みわたる水素水」の製造及び一般消費者向け通信販売を行っております。

(3) その他

不動産賃貸事業として、当社が所有する賃貸ビル（地下1階・地上4階建）の全フロアを顧客企業に賃貸しております。

（事業系統図）



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社アビストH&F	熊本県菊池市	420,000	水素水製造販 売事業	100.0	役員の兼務 3名 資金の貸付 水素水の購入

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2. 株式会社アビストH&Fは、特定子会社であります。
3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
設計開発アウトソーシング事業	1,097
水素水製造販売事業	9
合計	1,106

- (注) 従業員数は就業人員数であり、使用人兼務取締役は含んでおりません。

(2) 提出会社の状況

平成30年9月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,097	30.8	6.4	4,523

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であり、使用人兼務取締役は含んでおりません。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 当社におきましては、従業員の状況に関するセグメント情報の重要性が乏しいため、記載を省略してあります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、経営理念として「顧客主義（取引先との共生によるパートナーシップの確保）」、「社員主義（社員の自主自律による価値創造の確保）」、「成果主義（機会平等と評価公平性の確保）」を掲げており、事業目的として「取引先の信頼と安心の確保に基づくサービスの提供」、「社員の生活向上と安定の確保」、「コンプライアンス、CSRの遵守と社会貢献」を定めております。以上の経営理念及び事業目的は、当社設立以来の経営に対する基本的な考え方として、経営者はもとより、社員への浸透も図られております。

(2) 目標とする経営指標

売上高の伸び率

減収増益或いは微増収増益では、企業価値の拡大に限度があります。一定の率の売上高の拡大は、事業展開上必須の事柄であります。

利益率等

売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上高当期純利益率においてそれぞれ目標を設定し、収益力の高さを維持する経営を実践してきております。

技術社員数の増減及び稼働率の推移

技術社員数の増減は、当年度或いは次年度の売上規模を確定させる重要指数となります。また、稼働率は、売上高及び売上総利益に大きな影響を与えます。

請負業務比率

付加価値の高い請負業務の拡大により、収益力のアップ、技術力のアップに繋がるものと考えております。

当社コア業務領域の比率

当社の得意分野である自動車ランプ・内装・ボデー設計等のコア業務領域を拡大させていくことで、強みの更なる強化に繋がりたいと考えております。また、当社のコア業務領域は、今後、HV/EV等の次世代自動車の普及、自動車部品のモジュール化の進展に際しても、設計開発需要減少の影響は受けにくいと考えております。

実質無借金の維持

不測の事態に備え、実質無借金経営を維持することにより、収益悪化抵抗力を高めております。

配当性向

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけ、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針としております。配当政策につきましては、事業拡大のための設備投資などを目的とした内部留保の確保と配当の安定的拡大を念頭におき、財政状態及び利益水準を勘案した上で連結当期純利益の35%程度の水準（配当性向35%程度の水準）を每期配当していくことを原則としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当連結会計年度における世界経済は堅調に推移いたしました。米国における保護貿易政策に伴う貿易摩擦懸念、金融資本市場の変動など不透明な状況はあるものの、世界経済は引き続き緩やかな成長が続くと見込まれております。

我が国経済の先行きについても、企業収益や雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

当社グループが主力事業を展開する自動車業界及び自動車部品業界においては、中国や欧州各国でEV普及に向けた取り組みが加速し、メーカー間の合従連衡も急速に進み始めました。その中でもものづくりの上流工程である設計開発における技術者ニーズは活況が続きました。以上のような事業環境のもと、中長期的な会社の経営戦略は次のとおりであります。

数値目標

	第16期 (平成33年9月期)
売上高	11,718百万円
営業利益	2,245百万円
売上高営業利益率	19.2%
経常利益	2,265百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,533百万円

主力事業である設計開発アウトソーシング事業における戦略目標

イ 請負業務の効率化と拡大の継続

第16期目標：61.5% 第13期実績：56.3%

ロ 当社得意領域（第1～第3コア業務領域）の売上高について全売上高の70%以上を維持

<第1領域> 自動車用ランプ、内装、ボデー設計

<第2領域> 電装部品、機能部品、HV・EV関連設計、解析

<第3領域> シャシー部品、空調部品設計

ハ 3Dプリント事業の業容拡大（自動車、航空・宇宙分野での業務拡大）

その他の主な取り組み

イ 長く安心して働ける会社づくりの推進(待遇、福利厚生の見直し等)

ロ 水素水製造販売事業（株式会社アビストH&F）における新商品投入による早期収益化

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループとしては、開かれた、健全で透明な企業活動を展開し、企業価値の増大と収益率向上により永続的発展を目指していくことが経営上の最も重要な課題であると認識しております。

当社グループの中核事業である設計開発アウトソーシング事業では、事業基盤をより強固なものとし、事業を安定的に拡大発展させていくためには、より多くの技術者を確保していくことが必要となります。また、難易度が比較的低い設計業務では、他社との競争により、低単価・低採算となる可能性が高く、当社グループとしてはより難易度が高い設計業務や付加価値の高い請負業務の比率を高めていきたいと考えておりますが、そのためには高度な設計業務にも対応することができる高い技術力を持ったハイエンド3次元CAD（以下「3D-CAD」）技術者が必要不可欠となります。そのため、優秀な新卒社員の採用、社員の育成による技術力向上、即戦力となる技術者の中途採用等を継続的に行い、高い技術力を持った3D-CAD技術者を確保することを最優先に考え、その上で、より付加価値の高い請負業務を拡大するための提案営業の実践、業務及び管理体制の効率化、コンプライアンス体制の強化・確立等を、経済環境を見据えながらバランスよく強化推進してまいります。

一方、永続的な発展を目指していくためには、中長期的な観点で、当社グループの将来の中核事業となるべき新規事業を育成していくことも必要不可欠であります。当社グループとしては現在、そのような観点から、連結子会社の株式会社アビストH&Fにおける水素水製造販売事業の早期収益化、設計開発アウトソーシング事業とのシナジーを活かした3Dプリント事業の拡大に取り組んでまいります。

取り組みの具体的な内容は以下のとおりであります。

「社員の自主自律による価値創造の確保」など、当社経営理念の社員への浸透

専門性の高い技術者の採用強化（新卒、中途）

顧客のニーズに対応した社員教育システムの充実（タブレット型端末を活用したeラーニングによる社員技術力向上など）

請負業務拡大に向けた提案営業の実践

技術者料金のアップ

当社得意領域（ランプ・ボデー・内装など）の売上構成比拡大

請負業務の拡大を受けた機密情報へのアクセス権の管理強化及び顧客情報のセキュリティ強化

タブレット型端末の活用による管理体制の効率化・情報の共有化、経営 Cockpit の導入など、更なる情報化の推進

顧客に信頼されるコンプライアンス体制の強化・確立

連結子会社（株式会社アビストH&F）における商品知名度のアップ、定期顧客層の増大及びOEM等での売上拡大

3Dプリント事業の拡大

長く安心して働ける会社づくり

2 【事業等のリスク】

当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性をもった主な事項を開示し、投資家の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項を記載いたします。また、当社グループとして必ずしもリスク要因とは考えていない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。

当社グループはこれらリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避・分散及び発生した場合の対応に最大限努力する方針であります。また、以下の記載は当社株式への投資に関するリスクを全て網羅するものではありません。

なお、文中における将来に関する事項につきましては、本書提出日現在において判断しております。

法的規制について

当社グループの主力事業である設計開発アウトソーシング事業のうち労働者派遣業務は労働者派遣法により規制されております。平成27年9月30日に厚生労働省より施行された労働者派遣法改正法では、施行日以降、特定労働者派遣事業と一般労働者派遣事業の区別は廃止され、すべての労働者派遣事業は新たな許可基準に基づく許可制となりました。従来の特定期間労働者派遣事業者は新たに許可証取得が必要となったため、当社は平成28年3月1日付にて厚生労働省より労働者派遣事業許可証[許可番号：派13-306330]を取得いたしました。

設計開発アウトソーシング事業のうち請負業務については受託者である当社が委託者である顧客企業から請負契約に基づいて業務委託され、当社の管理と責任のもとで仕事を完成し、成果物を納品するものであり、民法第632条に規制されております。

また、子会社の株式会社アビストH&Fは、水素水の製造及び個人向けの通信販売等を行っており、食品衛生法、特定商取引に関する法律、不当景品類及び不当表示防止法等により規制されております。

当社グループでは関連法令の遵守を徹底しておりますが、仮に関連法令に違反するような事態が生じた場合には、事業の継続に支障が生じる可能性があります。

なお、関係諸法令は、情勢の変化等に伴い、継続的な見直しが行われています。その結果、関係諸法令の改正内容が当社グループの事業に重大な影響を及ぼす場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

競合について

労働者派遣業界、特に設計開発アウトソーシング業界内での競合状況が、市場の縮小や周辺業界からの新規参入等により激化した場合には、派遣技術者数の減少や単価の下落、設計請負金額の減少など、業績の悪化要因が生じることとなります。当社といたしましては、過度な価格競争等には巻き込まれないように、設計技術者集団を目指し、優秀な技術者の確保及び社員教育に力を入れていく考えであります。競合状況の悪化が急激かつ深刻なものである場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

社会保険料率の上昇について

当社では、請負業務はもとより、派遣業務におきましても特定労働者派遣事業として全ての社員が常用雇用者となり社会保険に加入いたします。そのため、当社グループが主力事業とする設計開発アウトソーシング事業では、売上原価の90%以上が労務費で構成され、年金制度や健康保険制度などの改正により社会保険料率が上昇しますと、原価比率の増加につながり、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

人材の確保について

当社は機械・機械部品・電子等の設計開発、システム・ソフトウェア設計開発等の技術を提供する設計開発アウトソーシング事業を展開しているため、技術者は重要な経営資源であり、技術者の確保は事業拡大のための重要な要素であります。

技術者の確保につきましては、各事業所に採用担当者を設置し、技術系社員の新卒採用と中途採用を実施しております。全国の理工系大学、高等専門学校への学校訪問・学内セミナー・インターンシップへの積極的な取り組み等を実施し、求人ウェブ、ホームページ等ネット媒体の活用及びハローワークを中心に積極的に技術者の採用活動を行っております。

しかしながら、万が一当社がこれらの技術者の確保を十分にできなかった場合や、技術者の退職数が当社の予想を大きく超えた場合には、取引先企業からの技術者の要望に対応できず、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

請負業務における瑕疵担保責任及び製造物責任について

当社の設計開発アウトソーシング事業のうち請負業務は、顧客企業から業務を請負い、その業務の指示や設計技術者の労務管理等について当社が一切の責任を負い、業務の遂行・完成を約し、その成果物を納品するものであり、その業務の成果に対し対価を受け取る形態になっています。当社はこの請負業務の売上構成比率を高め、安定的な事業の柱とすることを目指しております。

今後、請負業務が拡大成長していきますと、成果物に対する瑕疵担保責任や製造物責任等の追及を受けるリスクが増加し、それによる賠償責任による費用が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

情報の取り扱いについて

当社グループは、顧客企業に関する情報を大量に取り扱っておりますが、情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001、登録組織：本社・東京受託室、登録活動範囲：顧客要求に基づいた三次元CADによる設計業務）を認証取得したことで、万全の情報セキュリティ体制を確立するとともに、万が一の場合に備え、IT業務賠償責任保険にも加入しております。

しかしながら、特に請負業務における顧客企業の製品開発等の機密性の高い情報、ノウハウが何らかの原因により外部に漏洩した場合、当社の社会的信用を失墜させるだけでなく、損害賠償につながるリスクが現実化し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

自動車関連分野への依存について

当社では、設計開発アウトソーシング事業に占める自動車関連の売上高構成比率が74.4%（平成30年9月期連結）と高くなっており、自動車関連企業の業績の影響を受けやすい状況にあります。そのため、EV普及やモジュール化による、自動車部品点数の減少の影響を受けにくい、自動車ランプや内装等をコア技術領域として技術者シフトを行い、環境変化への対応力の向上を図っています。また、顧客企業の動向を把握し、その変化に対応できるよう十分注意して営業活動を行っています。

しかしながら、当社の想定を超えて、依存度の高い顧客企業の業績不振や設計・開発部門への投資の減少、また当該部門の海外へのシフト等が起きた場合には、当社技術者の稼働率が低下し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

特定取引先への依存について

当社の主たる取引先業界は自動車・輸送機器分野であり、なかでもトヨタ自動車株式会社向け売上高は、当社の全売上高の24.6%（平成30年9月期連結）を占めております。

当社といたしましては、同社及び関連部品メーカーの設計業務において欠かすことのできない存在となるべく、これまで以上に設計技術者の技術力向上に注力していくとともに、当社の技術力を生かせる新たな分野、新たな取引先への売上拡大にも積極的に取り組んでいく方針です。しかしながら、トヨタ自動車株式会社及び関連部品メーカー向けの売上高が大きく減少した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

稼働率について

当社の設計開発アウトソーシング事業では、全ての社員が常用雇用者となり、顧客企業に派遣していない期間や請負業務に配属していない期間でも技術者に対する労務費（原価）は発生いたします。そのため、技術者の稼働率が低下した場合は、売上高が減少する一方で、原価率が上昇し、利益率の低下を余儀なくされます。

当社では、技術者の研修を充実してスキルアップを図り、顧客企業の需要・ニーズ・信頼に応え、高い稼働率を確保できるよう努めております。また大規模地震などの災害時に備え、事業継続・早期復旧を図るための事業継続計画を定めておりますが、経済環境の変化や顧客企業の動向、他社との競合の激化、大災害等により稼働率が低下した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

システム障害について

システム障害によるリスクを十分に認識した事業継続計画を定め、サーバの安定的運用環境の確保や通信回線の冗長化等の施策を施しておりますが、自然災害・コンピューターウイルスあるいはサイバーテロ等によりITインフラが停止・破損した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

新規事業への進出について

当社グループは、中長期的な企業発展を目指し、既存事業と関係の少ない新規事業にも積極的に取り組んでまいりますが、新規事業は、その遂行過程において事業環境の急激な変化や、事後的に顕在化する予測困難な問題等によりリスクが発生する可能性は否定できず、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

水素水製造販売事業について

当社グループでは、水素水製造販売事業に取り組んでおります。飲料業界は比較的に景気の波に左右されにくいものと考えておりますが、個人向け通信販売あるいは企業向けOEM販売が計画通りに進まない場合には、工場建設等に係る投資資金を回収できず、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、同事業は飲料水等に関する製造事業であるため、製造、保管、運搬、販売の各過程において、衛生面の管理には万全を期しておりますが、万が一、お客様の健康被害等が生じるような事故が発生した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュフロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当社は主力事業である設計開発アウトソーシング事業における請負業務の拡大を中心に、積極的な事業推進に励んでまいりました。その結果、当連結会計年度における売上高は過去最高となる87億61百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益は15億98百万円（同7.0%増）、経常利益は16億20百万円（同8.6%増）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は10億72百万円（同11.0%増）となりました。なお、コミュニケーションロボット開発・販売事業の撤退に伴い、事業撤退損失67百万円を特別損失として計上いたしました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

設計開発アウトソーシング事業

当セグメントにおきましては、売上高は85億93百万円（前年同期比8.2%増）となり、セグメント利益（営業利益）は15億96百万円（同6.6%増）、セグメント利益（営業利益）率18.6%となりました。技術者稼働率が高水準で推移したこと、付加価値の高い請負業務の拡大等が増収増益に寄与いたしました。

水素水製造販売事業

当セグメントにおきましては、水素水全般に対するネガティブな報道の影響により売上が伸び悩み、売上高は2億1百万円（前年同期比22.3%減）、セグメント損失（営業損失）は19百万円（前年同期はセグメント損失（営業損失）24百万円）となりました。

その他

不動産賃貸事業に関しましては、売上高は31百万円（前年同期比2.8%増）となり、セグメント利益（営業利益）は20百万円（同0.7%減）、セグメント利益（営業利益）率65.6%となりました。

当連結会計年度末における総資産は75億27百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億95百万円の増加となりました。これは、主に現金及び預金の増加によるものです。

負債合計は19億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億25百万円の増加となりました。これは主に社員数増に伴う未払金（次月支払給与分）及び賞与引当金の増加によるものです。

純資産合計は利益剰余金の増加により55億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億69百万円の増加となりました。これは、主に親会社株主に帰属する当期純利益の計上による増加と剰余金の配当による減少によるものです。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、38億30百万円（前年同期27億92百万円）となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とその主な内訳は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は、14億60百万円（前年同期12億75百万円）となりました。この主な内訳は、税金等調整前当期純利益が15億53百万円（前年同期13億93百万円）、法人税等の支払額5億1百万円（前年同期4億49百万円）となっております。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用した資金は、1億31百万円（前年同期4億39百万円）となりました。この主な内訳は、投資有価証券の取得による支出3億44百万円（前年同期2億22百万円）となっております。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は、2億91百万円（前年同期は2億58百万円）となりました。この主な内訳は、配当金の支払額3億10百万円（前年同期2億58百万円）となっております。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)	
	生産高(千円)	前年同期比(%)
水素水製造販売事業	68,457	34.0
合計	68,457	34.0

- (注) 1. 設計開発アウトソーシング事業は、機械・機械部品の設計開発及びソフトウェア開発などの技術提供サービス事業であり、提供するサービスの性格上、生産実績になじまないため、記載を省略しております。その他事業は、生産活動を行っておりませんので、記載しておりません。
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。
3. 金額は、製造原価によっております。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当社グループの設計開発アウトソーシング事業はその形態から受注高と販売金額がほぼ同等となるため、記載を省略しております。水素水製造販売事業は、受注から販売までの期間が短く、期中の受注高と販売金額がほぼ同等となるため、記載を省略しております。

c. 販売実績

販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
設計開発アウトソーシング事業	8,593,977	+8.2
水素水製造販売事業	135,330	31.3
その他	31,985	+2.8
合計	8,761,293	+7.3

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)		当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
トヨタ自動車株式会社	2,102,872	25.7	2,151,020	24.6

2. 設計開発アウトソーシング事業に関する取引先業種別の販売実績は次のとおりであります。

取引先業種	前連結会計年度 (自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)		当連結会計年度 (自平成29年10月1日 至平成30年9月30日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
自動車・輸送機器	4,364,050	54.9	4,596,458	53.5
電子部品・電気機器(自動車関連)	1,482,715	18.7	1,690,387	19.7
情報処理・ソフトウェア(自動車関連)	93,779	1.2	105,285	1.2
自動車関連	5,940,545	74.8	6,392,131	74.4
電気機器(家電等)	568,138	7.2	660,250	7.7
情報処理・ソフトウェア(アプリケーションソフトウェア等)	570,738	7.2	548,498	6.4
一般機械機器	341,843	4.3	334,739	3.9
その他製造業	300,452	3.8	357,178	4.2
その他	219,203	2.7	301,177	3.4
合計	7,940,921	100.0	8,593,977	100.0

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成しております。

この連結財務諸表を作成するにあたっての重要な事項は、「第5[経理の状況]1[連結財務諸表等](1)[連結財務諸表][注記事項](連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 当連結会計年度の経営成績等の分析

当連結会計年度における当社グループの売上高は、87億61百万円(前年同期比7.3%増)となりました。これは主に主力の設計開発アウトソーシング事業において、積極的な新卒採用活動により技術者数が堅調に増加し、かつ技術者稼働率が高稼働で推移したことによるものです。

営業利益につきましては、設計開発アウトソーシング事業において、高付加価値である請負業務による売上高が堅調に増加し、またコスト削減等により販売及び一般管理費率が改善されました。この結果、15億98百万円(同7.0%増)となりました。

経常利益は16億20百万円(同8.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は10億72百万円(同11.0%増)となりました。

b. 経営成績に重要な影響を与える要因

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおり、様々なリスク要因が当社の経営成績に重要な影響を与える可能性があることを認識しております。そのため、当社は、外部環境の変化に留意しつつ、内部管理体制を強化し、優秀な人材を確保することで、経営成績に重要な影響を与える可能性のあるリスク要因を分散、低減し、適切に対応を行ってまいります。

c. 資本の財源及び資金の流動性

当社グループでは、経営環境の変化に対応するため資金の流動性を確保することで安定した財務基盤を維持することに努めております。

主な資金需要は、人件費、販売費及び一般管理費等の営業経費に加えて、3Dプリンタや3D - C A D端末等の設備投資等であります。

運転資金、設備資金等の所要資金につきましては、原則として自己資金で賄うこととしております。M & A等の一時的な資金需要が生じた場合には、主に自己資金及び金融機関による長期借入により資金を調達することとしております。

d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループでは、事業規模の拡大を示す売上高の伸び率と、事業規模の拡大に必須となる組織規模の拡大を示す従業員数を重要な指標としたうえで、事業の収益力を示すものとして売上高営業利益率と付加価値の高い請負業務比率の拡大を重視しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

該当事項はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

当社における主要な設備等は以下のとおりであります。

平成30年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備 の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウエア		合計
本社 (東京都中野区)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	統括業務 施設	538	0	1,758		725	3,022	22
アビストビル (東京都渋谷区)	その他	不動産 賃貸施設	102,297			279,420 (264.46)		381,718	
東京事業所 (東京都豊島区)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	2,843		4,597		11,881	19,322	357
海老名事業所 (神奈川県海老名市)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	50,662	75,711	1,085	51,127 (538.37)	614	179,200	8
宇都宮事業所 (栃木県宇都宮市)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	103	643	562		2,862	4,172	76
豊田事業所 (愛知県豊田市)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	2,539	1,737	923		7,912	13,112	262
静岡事業所 (静岡市葵区)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	1,233	295	233		1,390	3,152	46
名古屋事業所 (名古屋市中区)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	1,832	996	2,622		15,216	20,667	157
豊橋事業所 (愛知県豊橋市)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	218,298	247,953	2,553	83,264 (2,500)	18,591	570,660	4
広島事業所 (広島市南区)	設計開発 アウト ソーシ ング事業	営業管理 施設	1,095	0	667		4,907	6,670	72

(注)1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3. 上記の他、他の者から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (千円)	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
本社 (東京都中野区)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	21,356	85	
東京事業所 (東京都豊島区)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	44,014	26	
海老名事業所 (神奈川県海老名市)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	1,018	9	
宇都宮事業所 (栃木県宇都宮市)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	13,779	33	
豊田事業所 (愛知県豊田市)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	41,424	17	
静岡事業所 (静岡市葵区)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	16,553		
名古屋事業所 (名古屋市中区)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	33,236	50	
広島事業所 (広島市南区)	設計開発アウトソーシング事業	賃借建物・ソフトウェア及びOA機器リース	11,224	34	

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成30年9月30日現在

会社名 事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備 の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウェア	合計		
株式会社アビスト H&F 本社事務所(東京都中野区)	水素水製造 販売事業	営業 管理 施設						569	569	3
株式会社アビスト H&F 熊本・菊池事業所 (登記上本店、熊本県菊池市)	水素水製造 販売事業	水素水 製造 施設	148,732	94,977	68	89,157 (10,069.68)			332,936	6

(注)1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調達 方法	着手年 月	完成予 定年月	完成後の 増加能力
				総額 (注)	既支払額				
株式会社 アビスト	豊橋事業 所 (愛知県 豊橋市)	設計開発ア ウトソーシ ング事業	3Dプリン タ等	749,826		自己資金	平成30 年10月	平成31 年9月	業務能力 の増強
株式会社 アビスト	全拠点	設計開発ア ウトソーシ ング事業	3D-CAD 端末、プ ロッター等	80,167		自己資金	平成30 年10月	平成31 年9月	業務能力 の増強
株式会社 アビスト	全拠点	設計開発ア ウトソーシ ング事業	社内IT環境 の整備、充 実	46,422		自己資金	平成30 年10月	平成31 年9月	業務能力 の増強
株式会社 アビスト	本社 (東京都 三鷹市)	設計開発ア ウトソーシ ング事業	本社機能移 転及び不動 産賃貸事業 に使用	1,600,00 0	150,000	自己資金	平成28 年3月	平成31 年4月	本社機能 の充実及 び業務能 力の増強

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年12月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,980,000	3,980,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株であります。
計	3,980,000	3,980,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年12月17日 (注)1	450,000	1,990,000	714,150	1,026,650	714,150	1,016,650
平成27年1月1日 (注)2	1,990,000	3,980,000	-	1,026,650	-	1,016,650

(注)1.有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 3,450円

引受価額 3,174円

資本組入額 1,587円

2.平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったことによるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		20	25	33	56	3	4,827	4,964	
所有株式数(単元)		7,354	846	753	5,975	11	24,846	39,785	1,500
所有株式数の割合(%)		18.49	2.13	1.89	15.02	0.03	62.44	100	

(注) 自己株式193株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に93株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
進 勝博	東京都東大和市	650,000	16.33
ABIST社員持株会	東京都中野区新井2丁目6-13	226,600	5.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	210,200	5.28
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	188,000	4.72
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	175,000	4.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	154,000	3.86
大宅 清文	茨城県龍ヶ崎市	100,000	2.51
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	100,000	2.51
小林 秀樹	千葉県千葉市	90,000	2.26
進 顕	東京都渋谷区	75,000	1.88
進 里江	東京都中野区	75,000	1.88
計	-	2,043,800	51.35

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	210,200株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	154,000株

2. 平成29年4月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友アセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である株式会社三井住友銀行並びにS M B C日興証券株式会社が平成29年4月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年9月30日時点での実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友アセットマネジメント株式会社	東京都港区愛宕2丁目5-1 愛宕グリーンヒルズM O R Iタワー28階	186,800	4.69
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	6,800	0.17
S M B C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目3-1	13,800	0.35
計		207,400	5.21

3. 平成29年12月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、アセットマネジメントOne株式会社が平成29年12月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年9月30日時点での実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8-2	153,300	3.85

4. 平成30年6月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、フィデリティ投信株式会社が平成30年6月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年9月30日時点の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区六本木7丁目7-7	199,632	5.02

5. 平成30年7月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、大和証券投資信託委託株式会社及びその共同保有者である大和証券株式会社が平成30年6月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年9月30日時点での実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
大和証券投資信託委託株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	161,300	4.05
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	4,100	0.10
計		165,400	4.16

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,978,400	39,784	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	3,980,000		
総株主の議決権		39,784	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式93株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アビスト	東京都中野区新井 二丁目6番13号	100	-	100	0.0
計	-	100	-	100	0.0

(注) 上記の他、単元未満株式として自己株式を93株所有しております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	72	368
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	193		193	

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけ、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針としております。当社は、配当政策につきましては、内部留保の確保と配当の安定的拡大を念頭におき、財政状態及び利益水準を勘案した上で連結当期純利益の35%程度の水準（配当性向35%程度の水準）を毎期配当していくこと（業績連動の配当方式）を原則としております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を基本的な方針としており、期末配当の決定機関は株主総会、中間配当の決定機関は取締役会であります。

当期の剰余金の配当につきましては、当事業年度の業績を鑑み、継続的な安定配当の基本方針のもと1株当たり94円を実施させていただく予定です。この結果、当期の連結配当性向は34.9%となります。

内部留保資金の用途につきましては、今後の事業展開の備えと設備投資資金として投入していくこととしております。

なお、当社は取締役会の決議により中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年12月21日 定時株主総会決議	374,101	94.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月	平成30年9月
最高(円)	3,570	2,868 1,747	2,540	5,080	5,850
最低(円)	1,834	2,374 1,297	1,470	2,400	3,815

(注) 1. 当社株式は、平成25年12月18日から東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) に上場し、平成26年9月24日に東京証券取引所市場第二部に市場変更、平成27年3月23日に第一部指定されました。

2. 平成27年1月1日で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。それ以前については、該当事項はありません。

3. 印は、株式分割（平成27年1月1日、1株 2株）による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	5,250	5,370	5,010	4,850	4,645	4,350
最低(円)	4,565	4,785	4,605	4,525	3,815	3,815

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものです。

5 【役員の状況】

男性12名 女性 2名 (役員のうち女性の比率 14.3%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長	-	進 勝博	昭和13年8月7日	昭和37年 4月 東邦生命保険相互会社入社 昭和60年 5月 東邦整備株式会社代表取締役 平成 9年 9月 旧日本ビジネス開発株式会社入社 平成13年 3月 同社 執行役員 平成15年 3月 同社 取締役 平成16年 3月 同社 常務取締役 平成17年 3月 同社 代表取締役副社長 平成18年 3月 J B S エンジニアリング株式会社(現当社)設立 当社 代表取締役社長(現任) 株式会社アビストH & F 取締役(現任) 平成25年 3月	(注) 2	650,000
常務取締役	社長付新規事業開発/アビストH & F担当	進 顕	昭和45年11月13日	平成 5年 4月 株式会社明治屋入社 平成18年12月 明治屋商事株式会社転籍 平成23年10月 三菱食品株式会社転籍 平成24年10月 当社 新規事業開発担当部長 平成25年 3月 株式会社アビストH & F 代表取締役社長 平成30年12月 当社 常務取締役(現任)	(注) 2	75,000
取締役専務執行役員	事業本部長	柴山 憲司	昭和48年3月23日	平成 9年 4月 株式会社ワールドファニシング入社 平成12年 9月 ワールド東海株式会社入社 平成13年11月 旧日本ビジネス開発株式会社入社 平成18年 4月 J B S エンジニアリング株式会社(現当社)入社 名古屋支店長 平成20年10月 当社 執行役員中部関西支社長 平成21年10月 当社 常務執行役員経営推進部門長 平成21年12月 当社 取締役常務執行役員経営推進部門長 平成23年12月 当社 専務取締役経営推進部門長兼関連事業部長 平成24年10月 当社 専務取締役経営推進部門長 平成27年10月 当社 専務取締役事業本部長 平成29年12月 当社 取締役専務執行役員事業本部長(現任)	(注) 2	2,400
取締役専務執行役員	新規事業担当/関連会社担当/顧問等担当/役員等担当	島村 恒基	昭和23年1月19日	昭和45年 4月 東邦生命保険相互会社入社 平成11年 7月 株式会社エコ計画入社 平成12年 7月 トロイカアウスランズホールディングGmb H日本支店代表者 平成16年 1月 トロイカ株式会社代表取締役 平成19年 4月 当社入社 財務企画部長 平成19年10月 当社 執行役員管理本部長兼社長室・経営企画部長 平成20年10月 当社 執行役員社長室・経営企画部長 平成20年12月 当社 取締役社長室・経営企画部長 平成21年10月 当社 取締役経営管理部門長 平成21年12月 当社 取締役常務執行役員経営管理部門長兼経営企画部長 平成22年12月 当社 常務取締役経営管理部門長兼経営企画部長 平成23年12月 当社 専務取締役経営管理部門長兼経営企画部長 平成24年10月 当社 専務取締役経営管理部門長兼経営管理企画部長 平成25年10月 当社 専務取締役経営管理部門長 平成27年10月 当社 専務取締役経営管理本部長 平成28年10月 当社 専務取締役新規事業担当/関連会社担当/顧問等担当/役員等担当 平成29年12月 当社 取締役専務執行役員新規事業担当/関連会社担当/顧問等担当/役員等担当(現任)	(注) 2	-

取締役執行役員	-	久留島秀彦	昭和47年8月3日	平成10年 3月 平成17年 4月 平成18年 1月 平成18年 4月 平成18年10月 平成18年12月 平成19年10月 平成19年12月 平成22年12月 平成23年10月 平成24年10月 平成25年 3月 平成25年 4月 平成29年12月 平成30年12月	旧日本ビジネス開発株式会社入社 同社 東京支店長 同社 関東支社長 JBSエンジニアリング株式会社(現当社)入社 関東支社長 当社 事業部長 当社 取締役事業部長 当社 取締役横浜支店長 当社 横浜支店長 当社 取締役横浜支店長 当社 取締役関連事業部担当部長 当社 取締役新規事業開発部長 株式会社アビストH&F 専務取締役 当社 取締役 当社 取締役執行役員(現任) 株式会社アビストH&F 代表取締役社長(現任)	(注) 2	30,000
取締役執行役員	総務部長	丸山 範和	昭和45年 3月10日	平成 4年 4月 平成12年 5月 平成13年 4月 平成18年 4月 平成25年10月 平成26年10月 平成28年10月 平成30年12月	神鋼電機株式会社(現シンフォニアテクノロジー株式会社)入社 株式会社エブリネット入社 旧日本ビジネス開発株式会社入社 JBSエンジニアリング株式会社(現当社)入社 当社 総務部長 当社 経営管理企画部長 当社 執行役員総務部長 当社 取締役執行役員総務部長(現任)	(注) 2	3,000
取締役執行役員	経営管理企画部長	高橋 紀和	昭和52年 8月10日	平成13年 4月 平成18年 4月 平成25年10月 平成26年10月 平成27年10月 平成28年10月 平成30年12月 平成30年12月	旧日本ビジネス開発株式会社入社 JBSエンジニアリング株式会社(現当社)入社 当社 経営管理企画部長 当社 総務部長 当社 経理部長 当社 執行役員経営管理企画部長兼広報室長 当社 取締役執行役員経営管理企画部長兼広報室長(現任) 株式会社アビストH&F 社外取締役(現任)	(注) 2	600
取締役	-	眞木 正喜	昭和22年 9月29日	昭和45年 4月 平成 3年 2月 平成11年 4月 平成15年 6月 平成17年 6月 平成20年 4月 平成20年 6月 平成22年10月 平成27年12月	株式会社日立製作所入社 同社情報システム開発本部長技術部長 同社情報・通信グループ情報システム事業部システム技術統括本部長 株式会社日立システムアンドサービス 執行役員オープンソリューション事業部長 同社 執行役常務企画本部長 同社 執行役専務企画本部長 同社 取締役執行役専務企画本部長 株式会社日立ソリューションズ 監査役 当社 取締役(現任)	(注) 2	-
取締役	-	山本 守	昭和31年 5月 1日	昭和56年 4月 平成 7年 5月 平成14年 5月 平成30年 7月 平成30年 7月 平成30年12月	監査法人朝日会計社(現有限責任あずさ監査法人)東京事務所入社 同法人 社員就任(現パートナー) 同法人 代表社員就任(現パートナー) 株式会社日本橋アカウンティングサービス設立 代表取締役社長(現任) 株式会社エータイ 取締役(現任) 当社 取締役(現任)	(注) 2	-
取締役	-	寛 悦子	昭和32年 2月 5日	昭和56年 6月 平成14年 1月 平成22年12月 平成25年 4月 平成29年 9月 平成30年12月	日本アイ・ビー・エム株式会社入社 同社 サービス事業部プロセス&IT企画担当部長 日本アイ・ビー・エム・スタッフオペレーションズ株式会社出向 取締役 日本アイ・ビー・エム株式会社CIOサービスJapan担当理事 データライブ株式会社顧問 当社 取締役(現任)	(注) 2	-

取締役	-	横溝 恵子	昭和37年11月16日	昭和60年 4月 平成16年 4月 平成24年 4月 平成26年 4月 平成28年 4月 平成30年12月	株式会社博報堂入社 日産自動車株式会社入社 同社 宣伝部部長 同社 総合メディア宣伝部担当部長 E-グラフィックスコミュニケーションズ株式会社 取締役第2営業本部長(現任) 当社 取締役(現任)	(注) 2	-	
常勤監査役	-	金山 誠一	昭和29年 1月15日	平成17年12月 平成18年 4月 平成19年 4月 平成21年10月 平成24年10月 平成27年10月 平成27年12月 平成27年12月	旧日本ビジネス開発株式会社入社 JBSエンジニアリング株式会社(現当社)入社経理担当マネージャー 当社 経理部長 当社 執行役員経理部長 当社 常務執行役員経理部長 当社 執行役員経理部付 当社 常勤監査役(現任) 株式会社アビストH&F 監査役(現任)	(注) 3	3,700	
監査役	-	丸山 聡史	昭和42年12月21日	平成 3年 4月 平成10年 1月 平成20年 3月 平成22年12月	日本鉱業株式会社(現JX日鉱日石エネルギー株式会社)入社 日鉱金属株式会社(現JX日鉱日石金属株式会社)退社 株式会社MTIPS設立 同社 代表取締役社長(現任) 当社 監査役(現任)	(注) 4	-	
監査役	-	三澤 貞一	昭和24年3月10日	昭和48年12月 昭和60年 2月 昭和62年11月 平成 3年 1月 平成 3年12月 平成11年11月 平成17年11月 平成17年11月 平成23年12月 平成23年12月	銀座法律事務所(現阿部・井窪・片山法律事務所)勤務(インターンシップ) 更生会社リッカー株式会社管財人補佐 株式会社エム・エル・デイ代表取締役(現任) 阿部・井窪・片山法律事務所事務長兼チーフスタッフ(現任) 更生会社株式会社マルコー管財人補佐 有限会社経営法学倶楽部取締役(現任) 株式会社セットアップ監査役 株式会社ヴィンテージ・ジャパン監査役 当社 監査役(現任) 一般社団法人M.L.Dシニアオフィス代表理事(現任)	(注) 4	-	
計								764,700

- (注) 1. 取締役眞木正喜、山本守、寛悦子及び横溝恵子は社外取締役、監査役丸山聡史及び三澤貞一は社外監査役であります。
2. 取締役(山本守を除く)の任期は、平成30年12月21日開催の定時株主総会終結の時から平成31年9月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。ただし、山本守の任期は、平成30年12月22日から平成31年9月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
3. 常勤監査役金山誠一の任期は、平成29年12月22日開催の定時株主総会終結の時から平成33年9月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査役丸山聡史及び三澤貞一の任期は、平成27年12月18日開催の定時株主総会終結の時から平成31年9月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
5. 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各事業部の業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。
執行役員は執行役員東日本事業部長石井祐吾、執行役員東日本受託設計事業部長金井孝宣、執行役員西日本受託設計事業部長大竹誠治、執行役員第一トヨタ事業部長藤田知哲、執行役員第二トヨタ事業部長靄純一、執行役員西日本事業部長山浦雅生、執行役員3Dプリント事業部長湯田光紀、執行役員経理部長西川真衣の8名で構成されております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

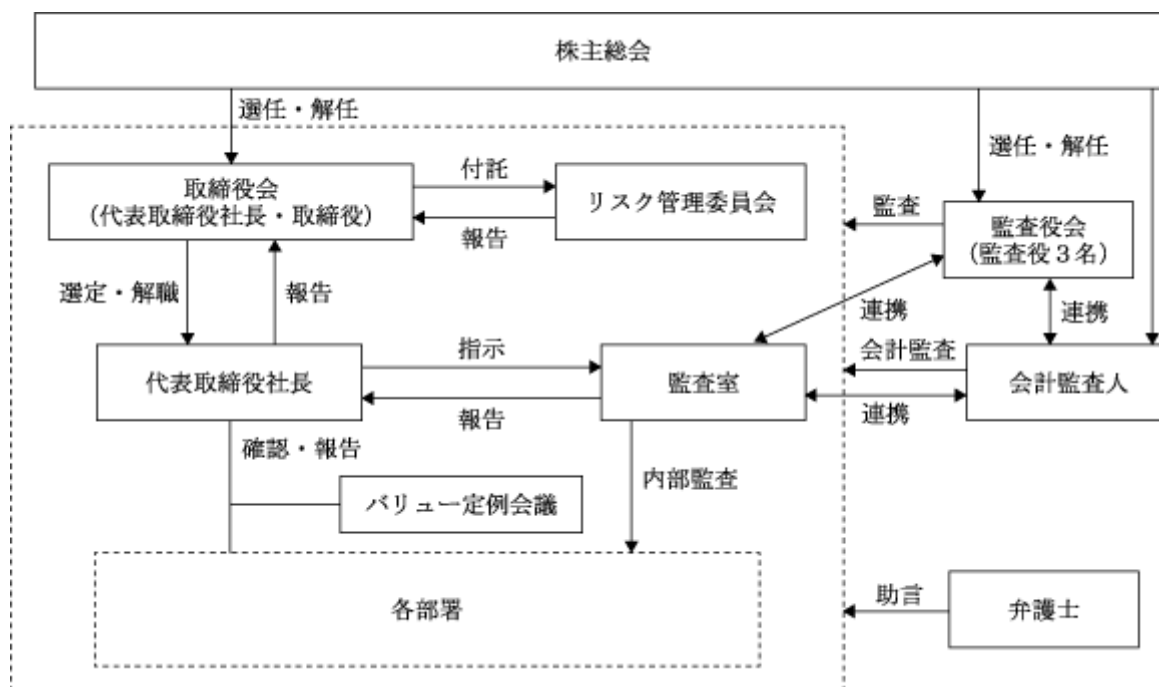
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

開かれた、健全で透明な企業活動を行いつつ、企業価値の増大と持続的発展を目指すことが、経営上の最も重要な課題であり、それを実現するためには、経営上の組織体制やその仕組みを整備し、必要な施策を講じていくことが不可欠であると認識しております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

当社は監査役会設置会社です。コーポレート・ガバナンスの充実のために、株主総会の充実、取締役会及び監査役の一層の機能強化を図るとともに、積極的かつ継続的な情報開示に取り組んでまいります。

当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部統制体制は以下のとおりです。



イ 会社の機関の基本的な説明

当社の取締役会11名、監査役会は3名で構成されております。取締役に関しては経営責任の明確化及び事業環境の変化への迅速な対応を図るため任期を1年としております。

ロ 取締役会

取締役会は代表取締役社長1名、取締役10名（内4名社外取締役）の計11名で構成され、全ての取締役及び監査役が出席し、毎月1回開催され、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。また、経営の基本方針並びに法令で定められた事項やその他経営に関する重要な事項を決定し、業務執行の監督を行っております。

ハ パリュール定例会議

パリュール定例会議は社長、事業本部長、新規事業担当/関連会社担当/顧問等担当/役員等担当取締役をもって構成され、毎週月曜日に開催しております。経営及び業務執行にかかわる全般的な重要事項に関して、その方向性や方針の確認・報告等を行い、経営課題及び業務の執行の効率化、迅速化に努めており、問題点は直ちに改善策を講じて業務執行に反映させております。

ニ 内部統制システムの整備の状況

当社は、平成20年2月開催の取締役会において、会社法第362条第4項第6号の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制及びその他株式会社の業務の適正を確保するための体制に基づき、内部統制システムの整備に関する基本方針を決定しております。また、当該基本方針の内容は平成26年12月19日開催の取締役会において一部改定を行っており、当該基本方針で定めた体制及び事項は以下のとおりとなっております。

取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
損失の危険の管理に関する規程その他の体制
取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保する体制
当社並びに企業集団における業務の適正を確保するための体制
監査役職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

ホ 監査役及び監査役会

監査役会は、常勤監査役1名と非常勤監査役2名（社外監査役）で構成され、監査に関する重要な事項についての報告、協議又は決定をするために毎月1回監査役会を開催し、監査の実効性を高めております。監査役は取締役会の他、重要な会議に出席することにより、取締役の業務執行状況を把握し、また重要書類・稟議書等の閲覧及び各部門との意見交換を行い、経営に対する監視の強化と取締役への適宜意見の陳述・助言を行っております。

ヘ 内部監査部門（監査室）

当社は、内部統制の有効性及び業務執行状況について、内部監査部門である監査室2名が全部門を対象に業務監査を内部監査年間計画に基づき実施しております。内部監査報告書は代表取締役、監査役に報告され、改善計画により、業務改善がなされる仕組みになっております。

ト 事業本部会議

当社は、経営課題である事業の拡大・発展を図るため、事業本部会議（Web営業会議）を原則毎月1回、また必要に応じて適宜に開催し、事業本部長・事業部長・各担当部長の参加の下に経営の基本方針の徹底、業務執行に関する重要な事項の決定、年度予算の進捗状況のチェック、業務執行状況の報告とそのチェック及び意見交換等を実施しております。なお、同会議には社長及び新規事業担当/関連会社担当/顧問等担当/役員等担当取締役も適宜出席し、事業方針に基づいた業務執行が適正になされているかのチェックを実施しております。

チ 監査役・監査室・会計監査人間の連携

監査役、監査室（内部監査部門）、会計監査人は、定期的に情報・意見交換を行い、監査の効率性と実効性の向上を図っております。具体的には、定期的に開催される会計監査人とのミーティング、内部監査を実施した都度開催される監査報告会に加え、監査室による内部監査報告書の会計監査人への提供、常勤監査役と監査室長による適宜の情報交換等により連携の強化が図られています。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、リスクマネジメントの確立に向けて「リスク管理規程」を制定し、リスク及び危機発生時の迅速・的確な対応ができる様「リスク管理委員会」を設置しております。リスク管理委員会においては、対象リスクの識別・評価を行い、定期的に取り締役に報告し、常に適切な対応をとるべく努めております。さらに、リスク管理及びコンプライアンスの徹底を図るため、取締役会、事業本部会議、その他の会議にて情報を共有化し、各役員から社員までリスクの早期発見と未然の防止に努めております。特に、情報の管理において当社は情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001、登録組織：本社・東京受託室、登録活動範囲：顧客要求に基づいた三次元CADによる設計業務）の認証を取得しており、情報セキュリティ体制には万全を期しております。また、コンプライアンスの徹底については社員の入社時、派遣開始時、朝礼時、各会議時及び社内報等を通して全社員にその意識付けを頻繁に実施しております。今後も社会の信頼に応える高い倫理観を持って行動すべく全社員にリスク管理及びコンプライアンスに対する意識の向上を図ってまいります。

また、規範・基準の整備、遵守体制の確立、問題解決手順の確立と対応を行っていくため、コンプライアンス委員会を設置しております。コンプライアンス委員会は、総務部長を委員長とし、経営管理企画部長、経理部長、広報室長にて構成し、四半期毎に1回開催しております。テーマによっては纏まった作業期間後に開催した方が結論を導きやすい場合もあり、議論すべきテーマに合わせて柔軟に開催日程を設定するようしております。

なお、当社は弁護士と顧問契約を締結し、適宜、重要な法的判断、コンプライアンス等に関して、助言と指導を受けております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分毎の報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	123,418	101,832			21,586	4
監査役 (社外監査役を除く)	10,050	9,000			1,050	1
社外役員	8,750	8,750				3

(注) 1. 上記の報酬等の総額及び退職慰労金には、第13期事業年度に係わる役員退職慰労引当金の繰入額を含んでおります。

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の報酬は、取締役報酬規程に基づき、株主総会が決定する報酬総額の限度内において、取締役会で決定しております。監査役の報酬は、監査役報酬規程に基づき、株主総会が決定する報酬総額の限度内において、監査役会で決定しております。

株式の保有状況

(保有目的が純投資目的である投資株式)

	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式以外の株式	190,761	231,169	4,622	18,949	3,561

社外取締役及び社外監査役と提出会社との人的関係、資本的关系又は取引その他利害関係

社外監査役丸山聡史は、代表取締役社長進勝博の三親等の姻族に該当いたしますが、それ以外の当社との人的関係、資本的关系又は取引その他利害関係はありません。また、社外監査役三澤貞一及び社外取締役眞木正喜と当社との人的関係、資本的关系又は取引その他利害関係はありません。

会計監査の状況

当社は、有限責任 あずさ監査法人との間で監査契約を締結しております。監査業務を執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

イ 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員・業務執行社員 篠崎 和博

指定有限責任社員・業務執行社員 大嶋 幸児

(注) 継続監査年数につきましては、2名とも7年以内であるため、記載を省略しております。

ロ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名 その他 10名

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任決議要件

取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

株主総会の円滑な運営を目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、定款に別段の定めがある場合を除き、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ 自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ 中間配当

当社は、株主の皆様への機動的な利益還元を可能とするため取締役会の決議によって、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を行うことができる旨を定款で定めております。

社外取締役又は社外監査役の選任状況

当社は一般株主保護のため、眞木正喜、山本守、箕悦子、横溝恵子を社外取締役、丸山聡史及び三澤貞一を社外監査役として選任し、さらに眞木正喜、山本守、箕悦子、横溝恵子及び三澤貞一を独立役員（一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役又は社外監査役をいう。）として選任しております。

当社は、社外取締役又は社外監査役の独立性に関する基準や方針については株式会社東京証券取引所が定める独立役員に関する指針を参考とし、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役を選任しており、経営の独立性を確保していると認識しております。

取締役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項に規定する取締役（取締役であった者を含む。）の賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

社外取締役との責任限定契約の内容

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役との間で、同法第423条第1項に規程する社外取締役の賠償責任を限定する契約を締結することができ、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令に規定する額とする旨を定款に定めております。当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1条の規定により、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項に規定する監査役（監査役であった者を含む。）の賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

社外監査役との責任限定契約の内容

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外監査役との間で、同法第423条第1項に規程する社外監査役の賠償責任を限定する契約を締結することができ、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令に規定する額とする旨を定款に定めております。当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	24,000	-	24,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	24,000	-	24,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の規模・特性・監査日数等を勘案し、双方協議の上で定めております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年10月1日から平成30年9月30日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年10月1日から平成30年9月30日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するために、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、同機構及び監査法人等の主催するセミナーに適宜参加しております。また、定期的に会計基準の検討を行うと共に、社内規程の整備を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当連結会計年度 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,578,845	3,800,483
売掛金	1,178,606	1,187,209
仕掛品	29,658	34,376
原材料及び貯蔵品	57,378	17,758
繰延税金資産	105,088	115,925
その他	305,521	135,383
流動資産合計	4,255,098	5,291,136
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	703,178	706,959
減価償却累計額	137,485	172,609
減損損失累計額	962	962
建物及び構築物(純額)	564,729	533,387
機械装置及び運搬具	868,159	922,287
減価償却累計額	303,424	404,554
減損損失累計額	95,417	95,417
機械装置及び運搬具(純額)	469,317	422,315
工具、器具及び備品	113,574	112,931
減価償却累計額	73,862	85,289
減損損失累計額	696	696
工具、器具及び備品(純額)	39,015	26,944
土地	502,970	502,970
建設仮勘定	150,000	150,000
有形固定資産合計	1,726,031	1,635,617
無形固定資産		
その他	113,136	77,059
無形固定資産合計	113,136	77,059
投資その他の資産		
投資有価証券	190,761	231,169
繰延税金資産	128,357	148,157
その他	115,963	143,721
投資その他の資産合計	435,082	523,048
固定資産合計	2,274,250	2,235,725
繰延資産	2,993	731
資産合計	6,532,342	7,527,593

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当連結会計年度 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	30,000	50,000
未払金	517,593	564,334
未払法人税等	299,073	302,321
賞与引当金	268,082	301,825
その他	174,950	243,438
流動負債合計	1,289,699	1,461,920
固定負債		
役員退職慰労引当金	176,826	201,914
退職給付に係る負債	245,632	273,865
その他	13,892	13,892
固定負債合計	436,351	489,672
負債合計	1,726,051	1,951,593
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,026,650	1,026,650
資本剰余金	1,016,650	1,016,650
利益剰余金	2,807,401	3,569,623
自己株式	301	670
株主資本合計	4,850,399	5,612,253
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,921	2,471
退職給付に係る調整累計額	55,029	38,724
その他の包括利益累計額合計	44,108	36,253
純資産合計	4,806,291	5,576,000
負債純資産合計	6,532,342	7,527,593

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自平成29年10月1日 至平成30年9月30日)
売上高	8,169,012	8,761,293
売上原価	5,469,652	5,998,623
売上総利益	2,699,359	2,762,670
販売費及び一般管理費		
役員報酬	124,768	131,351
給料及び手当	337,256	351,580
賞与引当金繰入額	27,543	27,234
退職給付費用	4,212	6,592
役員退職慰労引当金繰入額	20,589	25,087
その他	690,952	622,289
販売費及び一般管理費合計	1,205,323	1,164,135
営業利益	1,494,036	1,598,534
営業外収益		
受取利息	23	36
受取配当金	3,913	4,622
受取手数料	883	1,046
投資有価証券売却益	-	18,949
その他	1,128	1,530
営業外収益合計	5,947	26,184
営業外費用		
投資有価証券売却損	2,308	-
支払利息	187	199
障害者雇用納付金	1,950	1,250
開業費償却	2,194	2,194
保険解約損	1,029	446
その他	163	69
営業外費用合計	7,833	4,159
経常利益	1,492,150	1,620,558
特別損失		
事業撤退損失	-	3 67,364
減損損失	2 98,571	-
特別損失合計	98,571	67,364
税金等調整前当期純利益	1,393,579	1,553,194
法人税、住民税及び事業税	484,979	514,591
法人税等調整額	57,810	34,050
法人税等合計	427,169	480,541
当期純利益	966,409	1,072,652
親会社株主に帰属する当期純利益	966,409	1,072,652

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
当期純利益	966,409	1,072,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,270	8,450
退職給付に係る調整額	22,701	16,305
その他の包括利益合計	1 25,569	1 7,855
包括利益	991,979	1,080,508
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	991,979	1,080,508
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,026,650	1,016,650	2,099,686	136	4,142,849
当期変動額					
剰余金の配当			258,694		258,694
親会社株主に帰属する 当期純利益			966,409		966,409
自己株式の取得				164	164
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	707,714	164	707,550
当期末残高	1,026,650	1,016,650	2,807,401	301	4,850,399

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	37,349	32,328	69,678	4,073,171
当期変動額				
剰余金の配当				258,694
親会社株主に帰属する 当期純利益				966,409
自己株式の取得				164
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	48,270	22,701	25,569	25,569
当期変動額合計	48,270	22,701	25,569	733,119
当期末残高	10,921	55,029	44,108	4,806,291

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,026,650	1,016,650	2,807,401	301	4,850,399
当期変動額					
剰余金の配当			310,430		310,430
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,072,652		1,072,652
自己株式の取得				368	368
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	762,222	368	761,853
当期末残高	1,026,650	1,016,650	3,569,623	670	5,612,253

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	10,921	55,029	44,108	4,806,291
当期変動額				
剰余金の配当				310,430
親会社株主に帰属する 当期純利益				1,072,652
自己株式の取得				368
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	8,450	16,305	7,855	7,855
当期変動額合計	8,450	16,305	7,855	769,709
当期末残高	2,471	38,724	36,253	5,576,000

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,393,579	1,553,194
減価償却費	182,542	197,200
減損損失	98,571	-
賞与引当金の増減額(は減少)	28,564	33,743
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	27,923	51,735
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	20,589	25,087
受取利息及び受取配当金	3,936	4,658
支払利息	187	199
投資有価証券売却損益(は益)	2,308	18,949
事業撤退損失	-	67,364
売上債権の増減額(は増加)	87,338	8,602
たな卸資産の増減額(は増加)	48,649	6,757
前払費用の増減額(は増加)	7,784	11,821
未払金の増減額(は減少)	78,081	30,070
未払消費税等の増減額(は減少)	35,700	67,742
その他	73,106	17,800
小計	1,722,044	1,957,748
利息及び配当金の受取額	3,844	4,318
利息の支払額	218	198
法人税等の支払額	449,900	501,406
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,275,770	1,460,461
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	548,291	58,420
無形固定資産の取得による支出	66,613	6,455
投資有価証券の取得による支出	222,800	344,970
投資有価証券の売却による収入	409,190	311,274
敷金及び保証金の差入による支出	4,584	19,802
敷金及び保証金の回収による収入	2,087	1,059
保険積立金の積立による支出	13,871	16,934
保険積立金の解約による収入	3,275	316
その他	1,886	2,569
投資活動によるキャッシュ・フロー	439,721	131,361
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	20,000
自己株式の取得による支出	164	368
配当金の支払額	258,740	310,787
財務活動によるキャッシュ・フロー	258,905	291,156
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	577,143	1,037,943
現金及び現金同等物の期首残高	2,215,666	2,792,809
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,792,809	1 3,830,753

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社名 株式会社アビストH & F

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

たな卸資産

a 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

b 製品、原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

工具、器具及び備品 2～10年

無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用目的ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

連結子会社株式会社アビストH & Fにおいて開業費及び創立費を繰延資産に計上しております。

創立費

会社の成立のときから5年以内のその効果の及ぶ期間にわたり均等償却する方法によっております。

開業費

開業のときから5年以内のその効果の及ぶ期間にわたり均等償却する方法によっております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

なお、当連結会計年度における引当金残高はありません。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理方法

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の処理方法は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し、認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する

(2) 適用予定日

平成34年9月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、ます。

(連結貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。
当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当連結会計年度 (平成30年9月30日)
当座貸越極度額の総額	400,000千円	400,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	400,000千円	400,000千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
	41,097千円	千円

2 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

前連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失金額 (千円)
熊本県菊池市	事業用資産 (水素水製造販売事業)	機械装置及び運搬具	95,417
		その他	3,153

当社グループは、事業用資産については管理会計上の区分を基準に事業ごとまたは事業所ごとに資産のグルーピングを行っており、遊休資産については個別の資産ごとにグルーピングを行っております。

上記事業用資産については継続的に営業損失を計上していることから、将来の回収可能性を検討した結果、経済的残存使用年数内での投資額の回収が見込まれないと判断したため、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(98,571千円)として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額等を基準に算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、減損損失は連結損益計算書上、「事業撤退損失」に含めております。

3 事業撤退損失

当連結会計年度における「事業撤退損失」は、コミュニケーションロボット開発・販売事業からの撤退に伴う損失であります。

(事業撤退損失の内訳)

棚卸資産評価損	42,633千円
固定資産の減損	9,601千円
その他事業撤退関連費用	15,129千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	67,507千円	6,715千円
組替調整額	2,308千円	18,949千円
税効果調整前	69,816千円	12,234千円
税効果額	21,545千円	3,784千円
その他有価証券評価差額金	48,270千円	8,450千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	37,905千円	2,027千円
組替調整額	5,185千円	21,474千円
税効果調整前	32,719千円	23,501千円
税効果額	10,018千円	7,196千円
退職給付に係る調整額	22,701千円	16,305千円
その他の包括利益合計	25,569千円	7,855千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	3,980,000	-	-	3,980,000
合計	3,980,000	-	-	3,980,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	81	40	-	121

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年12月22日 定時株主総会	普通株式	258,694	65	平成28年9月30日	平成28年12月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年12月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	310,430	78	平成29年9月30日	平成29年12月25日

当連結会計年度（自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	3,980,000	-	-	3,980,000
合計	3,980,000	-	-	3,980,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	121	72	-	193

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年12月22日 定時株主総会	普通株式	310,430	78	平成29年9月30日	平成29年12月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年12月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	374,101	94	平成30年9月30日	平成30年12月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金	2,578,845千円	3,800,483千円
預け金(流動資産「その他」)	213,964千円	30,269千円
現金及び現金同等物	2,792,809千円	3,830,753千円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金繰り計画に照らして、必要な資金を銀行借入により調達しております。借入金の使途は、主に運転資金であります。また、一時的な余剰資金は安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、上場株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、すべて1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、固定金利によるものです。また、返済期日は、最長で決算日後2ヶ月後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

営業債権に係る顧客の信用リスク管理については、取引先ごとに残高管理を行うとともに、当社の「与信管理規程」に従い主な取引先の信用状況調査を定期的を実施しております。

市場リスクの管理

一時的な余剰資金の運用は、当社の「有価証券運用及び管理規程」に従い行うとともに、投資有価証券については、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

経営管理企画部が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年9月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,578,845	2,578,845	-
(2) 売掛金	1,178,606	1,178,606	-
(3) 投資有価証券	190,761	190,761	-
資産計	3,948,213	3,948,213	-
(4) 短期借入金	30,000	30,000	-
(5) 未払金	517,593	517,593	-
(6) 未払法人税等	299,073	299,073	-
負債計	846,667	846,667	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金 (2) 売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等については取引所の価格によっております。

(4) 短期借入金 (5) 未払金 (6) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,578,845	-	-	-
売掛金	1,178,606	-	-	-
合計	3,757,451	-	-	-

当連結会計年度（自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金繰り計画に照らして、必要な資金を銀行借入により調達しております。借入金の使途は、主に運転資金であります。また、一時的な余剰資金は安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、上場株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、すべて1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、固定金利によるものです。また、返済期日は、最長で決算日後2ヶ月後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

営業債権に係る顧客の信用リスク管理については、取引先ごとに残高管理を行うとともに、当社の「与信管理規程」に従い主な取引先の信用状況調査を定期的実施しております。

市場リスクの管理

一時的な余剰資金の運用は、当社の「有価証券運用及び管理規程」に従い行うとともに、投資有価証券については、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

経営管理企画部が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年9月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,800,483	3,800,483	-
(2) 売掛金	1,187,209	1,187,209	-
(3) 投資有価証券	231,169	231,169	-
資産計	5,218,862	5,218,862	-
(4) 短期借入金	50,000	50,000	-
(5) 未払金	564,334	564,334	-
(6) 未払法人税等	302,321	302,321	-
負債計	916,655	916,655	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金 (2) 売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等については取引所の価格によっております。

(4) 短期借入金 (5) 未払金 (6) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	3,800,483	-	-	-
売掛金	1,187,209	-	-	-
合計	4,987,693	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年9月30日)

(単位:千円)

区 分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	86,031	66,240	19,791
小 計	86,031	66,240	19,791
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	104,730	108,725	3,995
小 計	104,730	108,725	3,995
合 計	190,761	174,965	15,795

当連結会計年度(平成30年9月30日)

(単位:千円)

区 分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	80,194	66,240	13,953
小 計	80,194	66,240	13,953
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	150,975	161,367	10,392
小 計	150,975	161,367	10,392
合 計	231,169	227,607	3,561

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位:千円)

区 分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	409,215	-	2,308
合 計	409,215	-	2,308

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

(単位:千円)

区 分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	311,295	18,949	-
合 計	311,295	18,949	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を利用しております。なお、退職一時金制度を採用している連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
退職給付債務の期首残高	184,989	245,632
勤務費用	21,997	28,929
利息費用	739	1,965
数理計算上の差異の発生額	9,819	2,027
退職給付の支払額	-	633
過去勤務費用の発生額	47,725	-
退職給付債務の期末残高	245,632	273,865

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

該当事項はありません。

(3) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年9月30日)	(平成30年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	245,632	273,865
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	245,632	273,865
退職給付に係る負債	245,632	273,865
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	245,632	273,865

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
勤務費用	21,997	28,929
利息費用	739	1,965
数理計算上の差異の費用処理額	5,185	11,929
過去勤務費用の費用処理額	-	9,545
確定給付制度に係る退職給付費用	27,923	52,369

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

（千円）

	前連結会計年度 （自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）	当連結会計年度 （自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日）
過去勤務費用	47,725	9,545
数理計算上の差異	15,005	13,956
合計	32,719	23,501

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

（千円）

	前連結会計年度 （平成29年9月30日）	当連結会計年度 （平成30年9月30日）
未認識過去勤務費用	47,725	38,180
未認識数理計算上の差異	31,591	17,634
合計	79,316	55,814

(7) 年金資産に関する事項

該当事項はありません。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 （自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）	当連結会計年度 （自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日）
割引率	0.8%	0.8%
予想昇給率	7.0%	7.2%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度18,242千円、当連結会計年度20,364千円です。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当連結会計年度 (平成30年9月30日)
繰延税金資産		
賞与引当金	82,730千円	92,419千円
未払事業税	17,139千円	18,872千円
退職給付に係る負債	75,212千円	83,857千円
役員退職慰労引当金	54,252千円	61,826千円
減損損失	30,232千円	23,736千円
税務上の繰越欠損金	119,752千円	136,840千円
その他	13,628千円	13,265千円
繰延税金資産小計	392,948千円	430,818千円
評価性引当額	154,628千円	165,644千円
繰延税金資産合計	238,320千円	265,173千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	4,874千円	1,090千円
繰延税金負債合計	4,874千円	1,090千円
繰延税金資産純額	233,445千円	264,083千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自平成28年10月1日至平成29年9月30日)

各事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務について、当該資産除去債務の負債計上及びこれに対応する費用の計上に代えて、当該賃貸借契約に関連して資産計上されている敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうちの当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上しております。

なお、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額及び使用見込み年数は次のとおりであります。

1. 敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額

27,394千円

2. 使用見込期間

不動産賃貸借契約の開始日から 15年

ただし、本社については移転計画があるため、移転までの期間を使用見込期間としております。

当連結会計年度(自平成29年10月1日至平成30年9月30日)

各事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務について、当該資産除去債務の負債計上及びこれに対応する費用の計上に代えて、当該賃貸借契約に関連して資産計上されている敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうちの当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上しております。

なお、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額及び使用見込み年数は次のとおりであります。

1. 敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額

27,869千円

2. 使用見込期間

不動産賃貸借契約の開始日から 15年

ただし、本社については移転計画があるため、移転までの期間を使用見込期間としております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

当社は、東京都渋谷区において、賃貸オフィスビル(土地を含む。)を有しております。

当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	390,563	4,622	385,941	447,890

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、社外の不動産鑑定士による不動産価格調査報告書に基づく金額によっております。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

当連結会計年度(自平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

当社は、東京都渋谷区において、賃貸オフィスビル(土地を含む。)を有しております。

当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	385,941	4,223	381,718	480,000

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、社外の不動産鑑定士による不動産価格調査報告書に基づく金額によっております。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「設計開発アウトソーシング事業」及び「水素水製造販売事業」の2つを報告セグメントとしております。

設計開発アウトソーシング事業は、当社が手掛けておりますハイエンド3次元CAD(以下「3D-CAD」)をツールとした機械・機械部品の設計開発及びソフトウェア開発を行っております。同開発業務は業務形態別に派遣業務と請負業務(受託型・常駐型)に区分されます。その他、3D-CAD教育業務、3Dプリント業務、解析業務を行っております。

また、水素水製造販売事業は、連結子会社である株式会社アピストH&Fが行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメント利益又は損失は、営業利益又は損失であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額
	設計開発 アウトソー シング事業	水素水 製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,940,921	196,984	8,137,905	31,106	8,169,012		8,169,012
セグメント間の内部売上 高又は振替高		62,740	62,740		62,740	62,740	
計	7,940,921	259,724	8,200,646	31,106	8,231,752	62,740	8,169,012
セグメント利益又は損失 ()	1,497,610	24,704	1,472,906	21,129	1,494,036		1,494,036
セグメント資産	6,262,630	418,642	6,681,272	386,394	7,067,667	535,324	6,532,342
その他の項目							
減価償却費	128,244	49,592	177,836	4,705	182,542		182,542
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	602,587	11,610	614,197		614,197		614,197

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおりま
す。

2. セグメント資産の調整額 535,324千円はセグメント間取引消去等であります。

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額
	設計開発 アウトソー シング事業	水素水 製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,593,977	135,330	8,729,307	31,985	8,761,293		8,761,293
セグメント間の内部売上 高又は振替高		66,591	66,591		66,591	66,591	
計	8,593,977	201,922	8,795,899	31,985	8,827,885	66,591	8,761,293
セグメント利益又は損失 ()	1,596,784	19,222	1,577,562	20,971	1,598,534		1,598,534
セグメント資産	7,267,396	452,367	7,719,764	382,193	8,101,958	574,364	7,527,593
その他の項目							
減価償却費	171,782	21,111	192,893	4,307	197,200		197,200
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	23,703	56,606	80,310		80,310		80,310

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおりま
す。

2. セグメント資産の調整額は 574,364千円はセグメント間取引消去等であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略し
ております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車株式会社	2,102,872	設計開発アウトソーシング事業

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車株式会社	2,151,020	設計開発アウトソーシング事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	調整額	合計
	設計開発アウトソーシング事業	水素水製造販売事業	計			
減損損失		98,571	98,571			98,571

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

記載すべき重要な事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
1株当たり純資産額	1,207.65円	1,401.07円
1株当たり当期純利益金額	242.82円	269.52円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成29年9月30日)	当連結会計年度末 (平成30年9月30日)
純資産の部の合計額(千円)	4,806,291	5,576,000
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,806,291	5,576,000
普通株式の発行済株式数(株)	3,980,000	3,980,000
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	3,979,879	3,979,807

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	966,409	1,072,652
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	966,409	1,072,652
普通株式の期中平均株式数(株)	3,979,909	3,979,838

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	30,000	50,000	0.4	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	30,000	50,000	-	-

(注) 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,149,617	4,259,647	6,464,218	8,761,293
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	452,847	732,492	1,118,782	1,553,194
親会社株主に 帰属する四半期 (当期)純利益金額 (千円)	304,768	491,015	767,831	1,072,652
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	76.58	123.38	192.93	269.52

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	76.58	46.80	69.55	76.59

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当事業年度 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,493,431	3,709,253
売掛金	1,163,300	1,175,333
製品	957	-
仕掛品	29,658	34,376
原材料	47,454	13,443
前払費用	62,109	71,358
繰延税金資産	105,088	115,925
関係会社短期貸付金	43,156	30,598
その他	237,815	55,773
流動資産合計	4,182,971	5,206,063
固定資産		
有形固定資産		
建物	488,976	490,278
減価償却累計額	97,359	121,954
減損損失累計額	962	962
建物(純額)	390,653	367,361
構築物	19,906	19,906
減価償却累計額	768	2,612
構築物(純額)	19,137	17,293
機械及び装置	535,366	535,366
減価償却累計額	124,475	211,701
機械及び装置(純額)	410,890	323,664
車両運搬具	15,633	15,633
減価償却累計額	9,395	11,960
車両運搬具(純額)	6,238	3,673
工具、器具及び備品	110,658	110,014
減価償却累計額	71,408	82,740
減損損失累計額	398	398
工具、器具及び備品(純額)	38,851	26,875
土地	413,812	413,812
建設仮勘定	150,000	150,000
有形固定資産合計	1,429,583	1,302,681
無形固定資産		
ソフトウェア	111,574	76,490
無形固定資産合計	111,574	76,490
投資その他の資産		
投資有価証券	190,761	231,169
関係会社株式	280,287	280,287
関係会社長期貸付金	65,799	117,294
繰延税金資産	247,896	274,893
その他	115,863	143,621
投資その他の資産合計	900,608	1,047,265
固定資産合計	2,441,766	2,426,437
資産合計	6,624,738	7,632,500

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当事業年度 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	30,000	50,000
未払金	507,223	537,896
未払法人税等	296,702	299,997
未払消費税等	115,332	181,736
預り金	53,553	56,565
賞与引当金	268,082	301,825
その他	3,855	4,303
流動負債合計	1,274,748	1,432,325
固定負債		
退職給付引当金	166,315	218,051
役員退職慰労引当金	164,635	187,271
その他	13,892	13,892
固定負債合計	344,842	419,214
負債合計	1,619,591	1,851,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,026,650	1,026,650
資本剰余金		
資本準備金	1,016,650	1,016,650
資本剰余金合計	1,016,650	1,016,650
利益剰余金		
利益準備金	300	300
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,950,927	3,735,560
利益剰余金合計	2,951,227	3,735,860
自己株式	301	670
株主資本合計	4,994,225	5,778,489
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,921	2,471
評価・換算差額等合計	10,921	2,471
純資産合計	5,005,146	5,780,960
負債純資産合計	6,624,738	7,632,500

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当事業年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
売上高		
設計開発アウトソーシング売上高	7,940,921	8,593,977
その他の売上高	31,106	31,985
売上高合計	7,972,028	8,625,962
売上原価		
設計開発アウトソーシング売上原価	5,355,949	5,919,151
その他の売上原価	9,976	11,014
売上原価合計	5,365,925	5,930,165
売上総利益	2,606,102	2,695,797
販売費及び一般管理費		
役員報酬	112,000	119,582
給料及び手当	320,878	340,493
賞与	67,139	69,182
賞与引当金繰入額	27,543	27,234
退職給付費用	4,160	6,551
役員退職慰労引当金繰入額	17,929	22,636
減価償却費	16,432	20,001
その他	521,276	472,358
販売費及び一般管理費合計	1,087,361	1,078,040
営業利益	1,518,740	1,617,756
営業外収益		
受取利息	1 469	1 372
受取配当金	3,913	4,622
受取手数料	883	1,046
投資有価証券売却益	-	18,949
その他	1,116	1,501
営業外収益合計	6,382	26,491
営業外費用		
投資有価証券売却損	2,308	-
支払利息	187	199
障害者雇用納付金	1,950	1,250
保険解約損	1,029	446
その他	-	1
営業外費用合計	5,476	1,897
経常利益	1,519,647	1,642,350
特別損失		
事業撤退損失	-	3 67,364
関係会社株式評価損	2 469,712	-
特別損失合計	469,712	67,364
税引前当期純利益	1,049,934	1,574,986
法人税、住民税及び事業税	484,361	513,973
法人税等調整額	201,636	34,050
法人税等合計	282,724	479,923
当期純利益	767,209	1,095,063

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)		当事業年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	14,462	0.3	19,712	0.3
労務費		4,809,113	89.5	5,303,335	89.1
経費		547,122	10.2	627,686	10.6
当期総費用		5,370,697	100.0	5,950,734	100.0
期首製品たな卸高		-		957	
期首仕掛品たな卸高		32,696		29,658	
合計		5,403,393		5,981,351	
期末製品たな卸高		957		-	
期末仕掛品たな卸高		29,658		34,376	
他勘定振替高		2	6,850		16,809
当期売上原価		5,365,925		5,930,165	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
地代家賃	135,604	141,850
減価償却費	116,517	156,087

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
販売費及び一般管理費	5,095	1,999
事業撤退損失	-	14,809
その他	1,755	-

(原価計算の方法)

原価計算の方法は、実際原価に基づく個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,026,650	1,016,650	1,016,650	300	2,442,412	2,442,712
当期変動額						
剰余金の配当					258,694	258,694
当期純利益					767,209	767,209
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	508,515	508,515
当期末残高	1,026,650	1,016,650	1,016,650	300	2,950,927	2,951,227

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	136	4,485,875	37,349	37,349	4,448,525
当期変動額					
剰余金の配当		258,694			258,694
当期純利益		767,209			767,209
自己株式の取得	164	164			164
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			48,270	48,270	48,270
当期変動額合計	164	508,350	48,270	48,270	556,621
当期末残高	301	4,994,225	10,921	10,921	5,005,146

当事業年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,026,650	1,016,650	1,016,650	300	2,950,927	2,951,227
当期変動額						
剰余金の配当					310,430	310,430
当期純利益					1,095,063	1,095,063
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	784,632	784,632
当期末残高	1,026,650	1,016,650	1,016,650	300	3,735,560	3,735,860

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	301	4,994,225	10,921	10,921	5,005,146
当期変動額					
剰余金の配当		310,430			310,430
当期純利益		1,095,063			1,095,063
自己株式の取得	368	368			368
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			8,450	8,450	8,450
当期変動額合計	368	784,264	8,450	8,450	775,813
当期末残高	670	5,778,489	2,471	2,471	5,780,960

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

製品、原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	7～15年
機械及び装置	8～10年
車両運搬具	2～6年
工具、器具及び備品	2～10年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用目的ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

なお、当事業年度における引当金残高はありません。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法で費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の処理方法は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当事業年度 (平成30年9月30日)
当座貸越極度額の総額	400,000千円	400,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	400,000千円	400,000千円

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	当事業年度 (自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)
受取利息	448千円	336千円

2 関係会社株式評価損

前事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

前事業年度における関係会社株式評価損は、株式会社アピストH & Fの株式を評価減したものであります。

当事業年度(自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日)

該当事項はありません。

3 事業撤退損失

当事業年度における「事業撤退損失」は、コミュニケーションロボット開発・販売事業からの撤退に伴う損失であります。

(事業撤退損失の内訳)

棚卸資産評価損	42,633千円
固定資産の減損	9,601千円
その他事業撤退関連費用	15,129千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年9月30日)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式280,287千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

当事業年度(平成30年9月30日)

子会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式280,287千円）は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当事業年度 (平成30年9月30日)
繰延税金資産		
賞与引当金	82,730千円	92,419千円
未払事業税	16,598千円	18,350千円
関係会社株式	143,825千円	143,825千円
退職給付引当金	50,925千円	66,767千円
役員退職慰労引当金	50,518千円	57,342千円
その他	13,259千円	13,204千円
繰延税金資産合計	357,859千円	391,909千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	4,874千円	1,090千円
繰延税金負債合計	4,874千円	1,090千円
繰延税金資産純額	352,984千円	390,818千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当事業年度 (平成30年9月30日)
法定実効税率	30.9%	- %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.4%	- %
住民税均等割	1.1%	- %
評価性引当額の増減	3.4%	- %
税額控除	3.9%	- %
その他	0.2%	- %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.9%	- %

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首 残高 (千円)	当期 増加額 (千円)	当期 減少額 (千円)	当期末 残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期末 減損損失 累計額 (千円)	当期 償却額 (千円)	差引 当期末 残高 (千円)
有形固定資産								
建物	488,976	1,302	-	490,278	121,954	962	24,594	367,361
構築物	19,906	-	-	19,906	2,612	-	1,844	17,293
機械及び装置	535,366	-	-	535,366	211,701	-	87,225	323,664
車両運搬具	15,633	-	-	15,633	11,960	-	2,564	3,673
工具、器具及び備品	110,658	15,395	16,039	110,014	82,740	398	24,127	26,875
土地	413,812	-	-	413,812	-	-	-	413,812
建設仮勘定	150,000	-	-	150,000	-	-	-	150,000
有形固定資産計	1,734,352	16,698	16,039	1,735,011	430,968	1,360	140,356	1,302,681
無形固定資産								
ソフトウェア	218,034	7,005	9,455	215,584	138,772	321	35,733	76,490
無形固定資産計	218,034	7,005	9,455	215,584	138,772	321	35,733	76,490

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	本社他	サーバー式	11,378千円
ソフトウェア	東京事業所他	設計用ソフト	6,217千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	268,082	301,825	268,082	-	301,825
役員退職慰労引当金	164,635	22,636	-	-	187,271

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで											
定時株主総会	12月中											
基準日	9月30日											
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日											
1単元の株式数	100株(注)											
単元未満株式の買取り												
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部											
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社											
取次所	-											
買取手数料	無料											
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページアドレスに掲載します。 (https://www.abist.co.jp/) 但し、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、官報に掲載する方法により行います。											
株主に対する特典	<p>当社では、毎年度中間期末の当社株主名簿に記載された株主を対象として株主優待を実施しております。平成30年11月13日開催の当社取締役会において、平成31年3月31日付の当社株主名簿に記載された株主を対象とする株主優待の内容を決議しております。その内容は以下のとおりです。</p> <p>(株主優待制度の内容)</p> <p>平成31年3月31日付の当社株主名簿に記載された株主に、株式会社アビストH&Fの「浸みわたる水素水」(1ケースは500ml×30本、定価12,600円)を、保有株式数に応じて以下のとおり贈呈いたします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">内容</th> <th colspan="3">保有株式数</th> </tr> <tr> <th>100株以上 200株未満</th> <th>200株以上 1,000株未満</th> <th>1,000株以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浸みわたる水素水</td> <td>1ケース</td> <td>2ケース</td> <td>5ケース</td> </tr> </tbody> </table>	内容	保有株式数			100株以上 200株未満	200株以上 1,000株未満	1,000株以上	浸みわたる水素水	1ケース	2ケース	5ケース
内容	保有株式数											
	100株以上 200株未満	200株以上 1,000株未満	1,000株以上									
浸みわたる水素水	1ケース	2ケース	5ケース									

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第12期(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)平成29年12月25日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第12期(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)平成29年12月25日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

事業年度 第13期第1四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)平成30年2月13日関東財務局長に提出。

事業年度 第13期第2四半期(自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日)平成30年5月14日関東財務局長に提出。

事業年度 第13期第3四半期(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)平成30年8月10日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書を平成29年12月25日に関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年12月21日

株式会社アビスト
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠 崎 和 博

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 嶋 幸 児

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アビストの平成29年10月1日から平成30年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アビスト及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アビストの平成30年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社アビストが平成30年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成30年12月21日

株式会社アビスト
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠 崎 和 博

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 嶋 幸 児

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アビストの平成29年10月1日から平成30年9月30日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アビストの平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。